

さんしん ニュース

- 富山県医薬品企業・企業支援機関の視察報告 ●「がん検診受診促進に関する協定」締結
- 「夢企業大賞」受賞者インタビュー ●経営者インタビュー
- 「さんしん3CC」「さんしんチャレンジクラブ」活動報告 ●地域連携サポート ●NISA(ニーサ)のお知らせ
- 「食&農」こだわりの逸品展示会2013開催について ●無料相談室のご案内

2013
10・11
月号 月号
通巻248号



医療分野の支援を目指して 「富山県医薬品企業・企業支援機関の視察報告」

当金庫サポート営業部では、医療分野における、お取引先等への支援強化を目指すため、8月初旬に医薬品生産で有名な富山県を訪ねました。富山信用金庫の山地理事長をはじめ同金庫B&Lコンサルティングスクエアの役職員の皆様からご支援をいただき、本県の医薬品産業を牽引している製薬・製薬周辺企業と和漢医薬を研究する富山大学を視察して参りました。

1. 医薬品・関連企業視察

(1) 明治薬品(株) (大手製薬企業の受託製造、OTC医薬品製造)



本 社	東京都千代田区外神田 4-11-3
工 場	富山市三郷 6
資 本 金	9,800 万円
年 商	41 億円
従業員数	252 名
創 業	1948 年
主要品目	OTC 医薬品、受託製造

中部経済産業局が推進する産業クラスター計画「北陸ものづくり創生プロジェクト」に参画しており、産学官の連携による広域的な人的ネットワークの活用により、QOL（生活の質）を高める製品開発と製品化に注力している。事業部門としてOTC（市販薬、家庭用医薬品、大衆薬）事業、ヘルスケア事業、OEM事業の3部門がある。

外用液剤・内服固形剤は、「調製」から「充填包装」までの一貫ラインを備え、少量多品種生産に対応している。すべての製品において手順書があり、実証による「品質管理」が徹底されている。



当社の主力商品

(2) リードケミカル(株) (新薬開発、経皮吸収型貼付剤製造販売)



久金東工場

本 社	富山市日俣 77-3
資 本 金	4 億 5,867 万円
年 商	265 億円
従業員数	479 名
創 業	1969 年
主要品目	経皮吸収型貼付剤

経皮吸収型貼付剤（テープ剤およびパップ剤）に特化した新薬の開発に傾注している。先進の品質管理システムによって管理された生産設備は、高い生産性を有し、高品質で安全な医薬品を供給できる。

昭和 30 年代に農薬（殺虫剤）が散布された水田で、裸足で作業していた人たちが皮膚を通じて農薬が体内に入り込んだため中毒症状を起こした。当時は皮膚から薬が吸収されることを科学的に実証して、厚生省や学会に事実を認めてもらうことから医薬品開発がスタートした。現在当社は、高品質で安全な医薬品を世界へ供給する経皮吸収型貼付剤のスペシャリストであるが、貼付剤の目的と機能がさらに多様化、高度化に向かう新薬の開発に取り組んでいる。



当社の主力商品

(3) (株)タイヨーパッケージ (医薬品等パッケージ製造)

当社は、ドラッグストア向け医薬品 (OTC 医薬品) パッケージ、配置薬パッケージ、医療機関で使用される医療用医薬品パッケージを、企画デザインから製造・販売、物流まで一貫して行っている印刷紙器メーカーである。医薬品製造工場と

本 社	富山県中新川郡立山町利田 183-1 立山イノベーションパーク
資 本 金	5,500 万円
年 商	44 億円
従業員数	160 名
創 業	1948 年
主要品目	医薬品パッケージ 医薬品に関するラベル・添付文書の製造 その他食品・菓子パッケージ、文具の製造

変わらぬ建築構造と環境にありデザイン性と機能性を兼ね備えた工場・オフィスが印象的であった。

当社の先進製造技術を活かすため製造エリアは清潔でクリーンな環境が保持されており、品質管理体制の高さが覗えた。当社から「パッケージは医薬品の一部である」と説明を受けたが、その意味が十分に理解できた。

またオフィスエリアは『人と出会う』『モノと出会う』をコンセプトに機能性が高いワンフロアスペースである。そのコンセプトが評価され、2011年度の「日経ニューオフィス賞」を受賞した。



(株)タイヨーパッケージ本社にて楠社長(右)と当金庫稲田理事長



当社のパッケージ製品

2. 富山大学和漢医薬学総合研究所 民族薬物資料館

和漢医薬学総合研究所は近年著しく発展した先端科学技術を駆使することにより、伝統医学や使われる薬物を科学的に評価する。

東洋医学と西洋医学の融合をはかるため、新しい医薬学体系の構築と自然環境の保全を含め、人を部分だけでなく全体として捉えようとする姿勢、視点に立って(全人医療)貢献することを使命としている。

この使命を達成するため当研究所は

1. 天然薬物資源の確保と保全
2. 和漢医薬学の基礎研究の推進と東西医薬学の融合
3. 漢方医学における診断治療体系の客観化と漢方医療従事者の育成
4. 伝統医薬学研究の中核的情報発信拠点の形成

などに関する重点課題を設定し、研究所内の横断的連携、国内および国際的共同研究を推進している。

3. 今後の展望

富山県は、日本海側屈指の工業集積地で、全国でも第2次産業のウェイトが高い「ものづくり県」です。製造品出荷額等の構成比をみると、素材・部品を中心とした業種のウェイトが高い基礎素材型（製造品出荷額の割合：富山57.8% / 全国37.2%）で医薬品及び関連産業の一大集積を形成して医療、製薬の現場ニーズと「ものづくり企業」の技術シーズとをマッチングさせた新たな医療・福祉機器、製薬機器等の開発に取り組んでいます。また医薬品産業は「富山のくすり」として300年以上の歴史と伝統に裏付けられた成長産業だと実感いたしました。

今後、当金庫では静岡県ファルマバレーセンターと協働して地域の垣根を越えた連携や企業間ビジネスマッチングといった企業支援につなげていきたいと考えます。

視察に関する問い合わせ先

サポート営業部 法人サポート課 芹澤まで

電話 055-981-0121 FAX 055-981-1343

静岡県と「がん検診受診促進に関する協定」を締結

静岡県民の約3人に1人が、がんで亡くなっています。また、日本人の男性の約2人に1人、女性の約3人に1人が生涯のうちにがんにかかるといわれています。（出典：厚生労働省「平成23年人口動態統計」）

当金庫は三島市、伊豆市に続き2013年8月20日に静岡県と「がん検診受診促進に関する協定」を締結しました。地域貢献の一環として「がん検診の受診率50%以上」を目指した啓発活動に、当金庫も積極的に協力していきます。



協定書に調印する稲田理事長（左）



大須賀静岡県副知事と記念撮影



受賞者インタビュー

第3回夢企業大賞 優秀賞受賞企業 「有限会社 船原館」

“温泉療法付「かかりつけ湯」プラン”

2012年に3回目を迎えたビジネスプランコンテスト「夢企業大賞」。優秀賞を受賞したのは、歴史と緑に包まれた中伊豆にて温泉と健康をテーマにした新たな旅館サービスを提供する「有限会社 船原館」。今号では、そのサービスに迫ると共に、今広がりを見せる「かかりつけ湯」についてお伝えしていきます。



有限会社 船原館

代表取締役 鈴木 基文

U R L <http://www.funabarakan.jp/>

住 所 〒410-3216 伊豆市上船原 518-1

電 話 0558-87-0711

○事業のきっかけは何ですか？

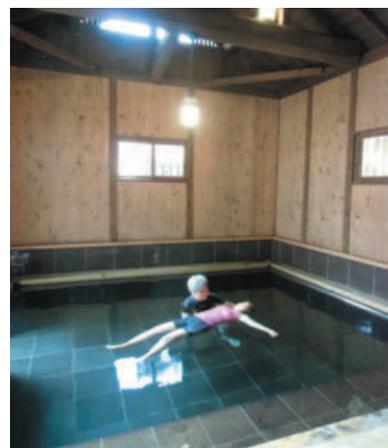
本事業の発端は10年以上前にさかのぼります。2000年に静岡県が、伊豆の観光を再生させように行った「伊豆新世紀創造祭」への参加でした。当時の観光は団体客がコンパニオンを挙げて、お酒をたくさん飲んで、お金をたくさん使って、というスタイルが主流であり、それに沿った経営でお客様を呼べる経営者がやり手の経営者だと考えていました。しかし、「伊豆新世紀創造祭」を機に立ち上がった温泉文化研究会に参加することで、いろいろな温泉療法やセラピーを自ら体験し、初めて温泉の持つ力の凄さ、気持ちよさに気付き、改めて温泉の持つ文化、歴史、健康増進の働きなどに気付きました。これが最初のきっかけとなり、当館も温泉本来の魅力を提供できる宿にしようと、目指すところを大きく変えることとなりました。恥ずかしいことですが、旅館の主人なのに、自身が「気持ちよく温泉に入っていなかったなあ」と気付いたのもこの頃です。

以後、セラピストや療法士の方を招き、年数回の健康イベントを行ってきました。ある時その取材に来ていた新聞記者に「ご自分で療法できるよう、資格を取られては？」と勧められたのが2度目のきっかけです。これを機に、2002年には「ワッツ」「天城流湯治師」の2つの資格を取得し、2004年には温泉療法専用の浴槽「たち湯」を作り、温泉と健康をテーマにした新たな旅館サービスが提供できるようになりました。

○サービスとはどんなものですか？

新しい湯治の方法として取り入れている、「ワッツ」と「天城流湯治法」です。

「ワッツ」とは、米国のハロルド・ダール師が考案したセラピーで、日本の指圧を元に創られた水中で行う究極のリラクゼーション法です。国内でも例を見ない、深さ120cm、温度36度ほどの温泉療法専門の浴槽「たち湯」で行います。この浴槽は、以前は夏期に使用する屋外温泉プールでしたが、2004年に療法を行い通年使える施設として作り変えました。今では、各種セラピーなどを行う温泉療法の拠点となっています。



たち湯で行われる温泉療法「ワッツ」。他では体験できない深い癒しが得られる。

「天城流湯治法」とは、伊東在住の湯治司 杉本錬堂氏が考案され、腰・膝・肩などの痛みを自分で改善する方法です。温泉の中で行うというそう効果的で、重たい症状の方にも対応できます。

どちらの療法も高いスキルを必要とし、スキルアップの勉強会、講習会への参加が必要です。それだけに、商品として取入れるのは簡単ではなく、ここが当館の強みと言えます。



「自分では気付いていない悪いところに気付かせてくれ、自分でできるケアを教えてくれる」とお客様。

○逆に「弱み」はあるのでしょうか？

一番の弱みは、「体験しないと本当の良さは分からない」ことです。

湯治は統合療法の一つであり、10人が受けて10人に効果があるわけではありません。人それぞれに違った性質があり、療法が異なります。そのため、実際に体験し、効果を分かってくれたお客様からの体験談、つまり昔ながらの「口コミ」が大きな宣伝ツールとなっています。

そのため、マスコミに対しては広告をほとんど出していません。しかし、私どもの想いや、これまで続けてきた温泉本来の利用法に共感し、応援して下さる多くの温泉ライターやマスコミの方たちのおかげで、旅雑誌、新聞、テレビ、ラジオ、最近では健康雑誌にも取り上げられています。

○サービスはどんな方におすすめですか？

「ちょっと疲れたから温泉でも入ってゆっくりしたい」方や小さな持病をお持ちの方から、「大病を患い、退院はしたけれど後遺症が残っている」方など大きな病の後のケアまで、全ての方達が「かかりつけ湯」プランのお客様です。病気は病院で治療しますが、病気の予防と病後のケアは温泉によってもたらされると考えています。病気の完治は無理だといわれても、その痛みが温泉で改善され日常生活が楽になってくれたらいいと思います。

○「かかりつけ湯」との連携について教えてください。

「かかりつけ湯」とは県・ファルマバレープロジェクトの一貫で、観光に健康の視点を入れた、新たな伊豆の温泉宿のブランドです。健康増進と癒しのサービスを提供するという方向性が私の目指すものと同じであり、2006年から加盟旅館でつくる協議会の代表幹事も務めています。

当館では「かかりつけ湯」との連携として3つのプランをご用意しています。

- ・「かかりつけ湯プラン」…温泉療法とヘルシーな伝統料理「お狩場焼き」が楽しめる宿泊プラン
- ・「ひざ・腰・肩痛のセルフケアセミナー」…セルフケア講座と日帰り温泉入浴がセットになったプラン
- ・「わさび飯・セルフケアとプチ湯治プラン」…映画「わが母の記」冒頭にも出てきた「わさび飯」中心の地ランチと、セルフケアセミナーが付いた、温泉三昧プラン

いずれも健康増進と癒しに繋がるサービスを、様々に組み合わせたプランで提供することで、「1歩先行くもてなし宿」を目指しています。

○地域に目を向けられた取組みもされていますね。

かかりつけ湯の取組みは「地域住民の健康増進」にも役立つと感じています。温泉療法は地域の皆様にも活用いただき、住民が健康であることの素晴らしさを再認識していただきたいと願っています。「あの地域の人たちは、温泉に入ってみんな健康で、医療費が随分少ないらしい」と言うようなことになれば、多くの方に湯治の良さを知っていただけることでしょう。小さな努力ではありますが、当館では上船原地区のお年寄りを対象に年に一から二回の割合で「温泉と健康」の教室を開催しています。天城流湯治法の基本は「自分

の体は自分で治す」ことですから、自分で健康になろうとする意識はきっと、医療費の額にも影響するだろうと期待しています。

また、行政との連携も必要です。「温泉を使って健康になろう」を掲げ、「黙っていてもそのブランドイメージで客が集まる」体制を整え、実績を挙げていく。そうすれば自然とマスコミは注目し、必然的に観光人口が増えるのではないのでしょうか。

○今後の展望について教えてください。～「温泉が日本を救う」

現在、当館に「健康」を目的に来られるお客様は約5%であり、多い月でも約15%です。ほとんどのお客様が「料理」「温泉」を求めて来られます。「健康」という視点でサービスやプランを打ち出してはいますが、どちらのお客様にも満足していただけることが大事だと考えています。そして、当館にはこの特色あるサービスやプランがある、だからこそお客様が選んでくださる、そういう施設にしていきたいと思っています。



2013年8月には、健康増進に関する勉強会を日帰り温泉とセットにした「からだの勉強会」を開催しました。反響は良く、同内容を全6回に分け9月からスタートした「からだの勉強会」にも申込まれたお客様がいます。これは、月1回、当館含め6施設が順に会場となり開催しますが、10年前と比べると、「健康」を切り口にした取組みを始める旅館が増えている現われです。このように、各旅館が特色を出していけば、伊豆の観光再生の一役となるでしょう。

「温泉が日本を救う」と言えば大げさかもしれませんが、夢に向かい一歩ずつ進んでいこうと思います。

伊豆 かかりつけ 湯

伊豆かかりつけ湯は、静岡県が推進するファルマバレー（富士山麓先端健康産業集積）プロジェクトの一環で、現在50軒が加盟しています。

「良質な温泉」と「おもてなし」を基本理念に、【温泉を活用した健康プログラム】、【健康に良い食事】、【連泊・リピートがしやすい料金】、【さまざまな癒しの提供】のうち1つ以上の特徴をもった宿が選ばれています。

かかりつけ湯加盟宿で作る「かかりつけ湯協議会」は、宿の特徴を生かした宿泊プランの開発や食事の改善、温泉を活用した健康プログラムの商品化などを行っています。また「伊豆は一つ」を具体化するため、かかりつけ湯ネットワークを活用した伊豆観光の活性化や、伊豆半島ジオパークをテーマにした商品開発もを行っています。

今年は、加盟6施設の温泉を楽しみながら自分の体をケアする方法が学べる「健康寿命をのばすからだの勉強会」（全6回）や、耳つぼジュエルや薬膳ランチ、温泉入浴などがセットになった女性限定の「美帰りサロン」などを開催し、好評を得ています。

伊豆の温泉で楽しみながら健康に一かかりつけ湯は皆様のお越しをお待ちしています。



詳しいお問い合わせは「かかりつけ湯協議会事務局」TEL 055-988-0777 へ。

■かかりつけ湯ホームページ <http://www.kakaritsukeyu.jp/>



経営者インタビュー

「かかりつけ湯」今年度認定施設「伊豆長岡ホテル天坊」

～笑顔の輪広げる「笑顔ホテル」を目指して～

「かかりつけ湯」に、今年度新たに4施設が加わりました。このうち、現在開催中の「からだの勉強会」（伊豆かかりつけ湯協議会主催）に参加する、伊豆長岡の富士山を望む見晴らしのよい、明るく開放的なお宿「伊豆長岡ホテル天坊」の取組みをご紹介します。



伊豆長岡ホテル天坊

代表取締役社長 向笠 圭治

U R L <http://www.izu-tenbo.com>

住 所 〒410-2211 伊豆の国市長岡 431-1

電 話 055-947-1919

○「かかりつけ湯」参加のきっかけは何でしょうか？

「かかりつけ湯」の基本理念が、当ホテルの考え方と合致していたからです。

その基本理念とは、①お客様に温泉による癒しと健康増進のサービスを提供すること、②お客様の視点を重視し、もてなしの心でサービスを提供すること、③施設の衛生管理や安全性を十分確保し、適正な温泉の表示や情報提供を行うこと。かかりつけ湯の参加条件は、船原館様のように、温泉療法ができるといったような個性的なサービスで体现できなければいけないのではないかと思います、躊躇していました。しかし、かかりつけ湯の説明会で、温泉についての情報開示とおもてなしという基本に加え、4つの特徴「食」「料」「健」「癒」のうち1つ以上を有することが条件と伺いました。「それならば、当ホテルのやり方でも合致するのではないかと？」と参加申込みをし、結果、認定をいただきました。

また、もう一つのきっかけは、「天坊の敷居が高い」というイメージを地元の方が持っていることを知ったことです。当ホテルにお越しになるお客様は、県内が約32%、首都圏が約38%、名古屋以西が約30%です。ここ数年、地元利用が伸び悩んでおり、来年15周年を迎えることもあって、地元の皆様への恩返しをしたいと思ってもあって、この事業に積極的に参加しました。



山々が展望できる露天風呂

○ホテル天坊はどのようなお宿でしょうか？

「全体的なバランスの良さ」が天坊の特徴です。自慢の3種類の露天風呂、地産にこだわったお料理、都心のエステにも引けを取らない本格アロマエステなどをご用意し、「身も心も元気になれる宿」として、お客様の健康のために最大限にご利用いただきたいと思えます。また、旅館というよりはホテルという感覚でご利用いただき、宿泊客のみに限らず誰でも気軽にご利用できる場所でありたいと願っています。

○「温泉」の魅力を教えてください。

設備としては、広く開放的な展望大浴場と3つの露天風呂、100%源泉掛け流しの貸切り風呂を備えています。

温泉としては、源泉は伊豆長岡温泉のアルカリ性単純温泉で温度は高めです。効能は神経痛・筋肉痛・関節痛・五十肩・冷え性・病後回復期・疲労回復などです。

開放感あふれる温泉につかれば、体と気持ち、両面でリラックス効果を感じていただけるでしょう。

○「かかりつけ湯」としての特徴は何でしょうか？

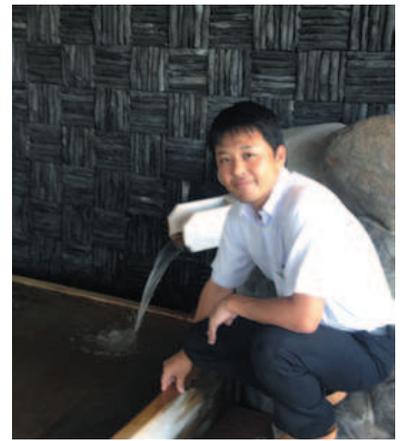
当ホテルの特徴は「地産にこだわった「食」」です。

こだわりはまず素材から。安心・安全を提供するべく、28種類の地元契約農家こだわりの無農薬野菜、魚介類は沼津港から新鮮な旬のものを取り



ベジ・ランチの様子

寄せています。料理は和食の基本に忠実に、素材を上手に活かしながら、その時代にふさわしいものにアレンジして創り上げます。これを開放感あるオープンキッチンを併設したレストランで提供しています。この料理を温泉とセットで楽しめる日帰りプランは、当ホテル人気のプランとなっています。体の内と外から健康増進に役立つと思われます。



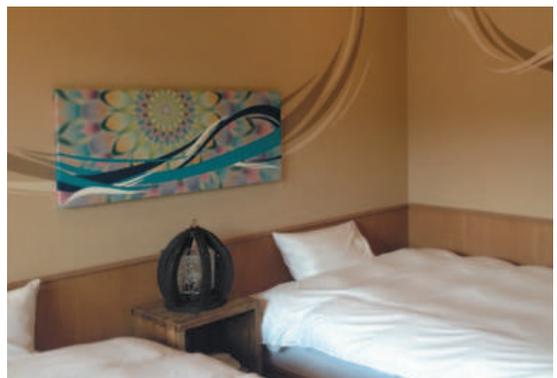
笑顔で説明して下さるフロント営業の徳丸キャプテン

○「地元への恩返し」とありましたが、詳しく教えてください。

先ほども述べましたように、地元で取り組まれている事業に積極的に参加しています。

伊豆かかりつけ湯協議会では、月1回各旅館を会場に、勉強会と日帰り温泉がセットになった「からだの勉強会」を開催しており、当ホテルでの開催は11月となります。また、行政機関との連携も大切な要素であり、介護関係で利用いただく企画も進行中です。このように各機関が連携すれば、やりたいと思っても単独では難しい企画も打ち出していくことができるのだと、日々感じています。

その他、地域の宝である「ヒト」にスポットをあてたいと思い、地元アーティストとのコラボレーションを行っています。部屋の中の絵や置物（右図参照）などは、地元で活動するアーティストの作品です。年に1,2回、作品展「伊豆互展」も開催し、発表の場として活用いただいています。



部屋には地元アーティストの作品が飾られている

○今後の展望を教えてください。～笑顔ホテル～

当ホテルのコンセプトは「笑顔ホテル」です。社員が笑顔で働け、その笑顔がお客様に伝わり、お客様は来たときよりも笑顔になって帰られる。この笑顔の輪を広げることこそ、当ホテルの目指すところであります。

そのためには、社員がお客様に笑顔で接することができる環境を作ることが重要と考えています。リーダーは「社員は笑顔の接客ができていますか?」「社員同士、笑顔を合わせる機会を持てているか?」「効率を重視しすぎて人間関係が希薄になってしまっていないか?」等、円滑なコミュニケーションができるよう心を配り、社員の笑顔を守っていきたいと思います。

「さんしん3CC」「さんしんチャレンジクラブ第2期」活動報告

2013年8月27日、さんしんチャレンジクラブ8月定例会を行いました。本定例会には、来賓として三島信用金庫 稲田理事長に、特別ゲストとしてさんしん3CC会員の皆様にご出席いただきました。

まず始めに、第2期会長石川より第2期生の活動報告を発表させていただきました。

続いて問題解決法であるKJ法セミナーを、参加者を1チーム7、8人に分けて行い、「企業の発展と地域貢献」というテーマで行いました。各班それぞれ意見が異なり、新しい視点の発見につながる勉強会となりました。

最後は、稲田理事長より講話をいただきました。「モノ・コトには色々な見方があり、色々な方向から討論することで、自分の会社をよりよくしていくための気付きが生まれる。その手法であるKJ法を自社の経営に活かしてほしい」との言葉をいただき、盛況のうちに終了しました。



稲田理事長 講話の様子

第2期の活動報告

第2期生は2012年6月より発足し、次世代を担う静岡県東部・伊豆地域の若手経営者・後継者が業種の垣根を超え、会員企業の経営力向上と、地域経済の持続的発展に寄与することを目的に活動を開始しました。以降、

“つながれ東部伊豆！成長と進化”をコンセプトに、3つの活動方針『つながり』『成長』『楽しさ』を掲げ、月1回、経営に必要なスキル・経営者としての心構えを学ぶため、視察・セミナー・ワークショップなどを行ってきました。

現在会員数は26名、13業界6業種からの参加があり、異業種交流の場として活用し、会員内のビジネスマッチングへとつながっています。

【さんしんチャレンジクラブ第2期会長：石川英章】



さんしん3CCの声

Voice

【チャレンジクラブ2期生8月定例会KJ法セミナーに参加して】

ブレインストーミングでカードに記入した多くの意見をグループ化、整序し問題解決の道筋を明らかにしていくKJ法の実践に参加させていただき『求められているのは「分ける」ことではなく「つなぐ」こと』と各班の最終発表を聴きながら深く感じました。ただ、今回は時間的な都合上短縮特別ルールを決めての実践だったため、もう少し時間的



余裕があれば第1ステップのアイデアの抽出時もっと掘り下げた深層意見もでて、第2ステップ以降の「まとめ作業」において個々の更なる意見や意識の討論ができたのかな？と思いました。ただし限られた時間の中でしっかりと行事を終了させる2期生の時間的配分と進行、協和と向上を感じとても感心いたしました。今回は学びある貴重な時間を共に過ごさせていただきました。ありがとうございました。



【さんしん3CC会長：山本豊】

地域連携サポート

2013年8月25日、三島市で「街中だがしや楽校2013 静岡in 三嶋大社・糸びす参道」が開催されました。このイベントは、地域の教育力が問われる中、今の子ども、昔の子ども（親）、大昔の子ども（祖父母）たちが集い、大社の歴史的価値と地域の教育力を見直すことを目的としています。さらに、糸びす参道を歩行者天国として会場に含めることで、商店街をはじめとした地域振興としても位置づけられています。

当金庫は、この運営団体である「街中だがしや楽校運営協議会」のメンバーであり、当日はだがしやマーケット、富くじ抽選会場にて地域の皆様と交流しました。午前中は生憎の雨でしたが、たくさん子どもたちが参加し、時にはブースが人で溢れるほどの賑わいを見せ、盛況のうちに終了することができました。



お知らせ | Information

平成26年1月から新たな証券優遇税制

「NISA(ニーサ)」 (少額投資非課税制度)

が始まります。

詳しくは下記URLよりご確認ください。

http://www.mishima-shinkin.co.jp/important/NISA_2013.pdf

お問い合わせはお近くの **さんしん** へ

土曜日のご相談はサポートセンターをご利用ください

サポートセンター 

月曜日～土曜日 9:00～17:00
(12/31～1/3、日曜日、祝日はお休み)

三島南支店 2F (三島市新谷 155-1)

TEL.055-981-0020 (代)



「食&農」にこだわりの逸品展示会2013

11/21(木) 22(金) 開催

2013年6月22日、ジュネーブで行なわれた第37回世界遺産委員会において、富士山の世界遺産登録が決定しました。正式名称は「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」。忘れられない歴史的瞬間を迎えた今年にはまさに「富士山」の年と言えるでしょう。ここ静岡県東部でも、ポスターやのぼり旗、富士山関連商品が街を賑やかにしています。

そして当金庫でも、富士山の世界遺産登録を記念し、5回目の開催となる『「食&農」こだわりの逸品展示会』を県下最大級の規模にて開催します。静岡県東部のみならず「富士山」をぐるっと囲む静岡県中部・西部・山梨県を、更には海を超え食の宝庫 北海道東部を含む、約170ブースの出展を予定しています。

開催日は11月21日、22日の2日間であり、1日目は事業者向けの「ビジネスマッチング」、2日目はどなたでもご来場OKの「物産展」となっております。

みなさまのご来場をお待ちしております。



名称：富士山・東北海道ビジネスマッチング「食&農」こだわりの逸品展示会2013
 日時：平成25年11月21日(木) 10:00-17:00
 11月22日(金) 10:00-16:00
 会場：キラメッセぬまづ 〒410-0801 静岡県沼津市大手町1-1-4 TEL.055-920-4100

無料相談室のご案内(予約制)



相談内容	相談担当	開催日
法律相談	弁護士 白井 正人	10/ 9(水) 11/ 7(木) (10:00~12:00)
	弁護士 鈴木 弘之	10/22(火) 11/26(火) (14:00~16:00)
税務相談	税理士 稲木 欣吾	10/ 1(火) 10/15(火) 10/22(火) 10/29(火) 11/ 5(火) 11/12(火) 11/18(月) 11/26(火)
経営相談	法人サポート課職員	月曜日~土曜日(9:00~17:00)
住宅ローン相談	ローンセンター職員	
年金相談	個人サポート課職員	

どうぞ、お気軽にお取引の三島信用金庫本・支店までご予約下さい。
 尚、相談日は受付順にて承っております。ご希望に添えない場合もございます。あしからず、ご了承ください。

※経営相談・ローン相談・年金相談窓口は、当金庫

サポートセンター



三島市新谷155-1
(三島南支店2F)

にて、開設しております。